

# PRP療法（自費）

難治性着床障害に対しPlatelet Rich Plasma（多血小板血漿）療法を行っています。

2020年2月に厚生労働省「認定再生医療委員会」において施設認定され、上記治療を開始いたします。

多血小板血漿を使った不妊治療とは、患者様自身の血液から抽出した高濃度の血小板を子宮内に注入し子宮内膜を活性化し着床効果を期待する方法です。血小板は細胞の成長を促す物質や免疫にかかわる物質を含むため、PRP療法によって子宮内膜が活性化され受精卵が着床しやすくなると考えられています。

## 【対象】

- ・ホルモン補充周期で行う融解胚移植、または人工授精周期  
なお、血小板が $150,000/\text{mm}^3$ 未満、ヘモグロビン値（Hb）が $11\text{g/dl}$ 、抗凝固薬で治療中の方など本治療の対象として不適切と判断されることがあります。

## 【方法】

- ・治療は1周期に2回投与が原則です。
- ・患者様の前腕から静脈血を20ml採取し、遠心分離機で血漿部分を抽出します。調製したPRP（約1ml）を患者様の子宮内に注入します。  
通常、採血から注入まで約60分となります。
- 採取したPRPが固まるなど、分離後の性状が子宮内注入に不適切と判断された場合は、「再度採血」または「投与を中止」することがあります。
- 注入後はすぐに帰宅可能で、その日の安静などは不要、入浴も可能です。

## 【治療について】

- ・PRP療法ご希望の場合は、その旨を診察時に医師にお伝えください。
- ・PRP療法当日までに同意書が必要となります。
- ・PRP療法は自費の治療となりますので保険診療と組み合わせて行うことはできませんのでご注意ください。
- ・投与日の目安として、1回目は月経10日目頃、2回目は月経12日目頃となりますが、具体的なスケジュールに関しては医師より改めてご説明いたします。

## 【料金】

- ・ 1周期に2回投与：220,000円（税込）

※1回投与のみご希望の方は165,000円（税込）

なお、PRP投与後に子宮内膜が薄い・出血等でその後の胚移植や人工授精等の治療が中止になった場合でも返金できかねますので予めご了承ください。

## 【副作用について】

- ・ 自身の血液を使用するため、アレルギー反応等の副作用が起こることは少ないと考えられており、国内外で具体的な有害事象は報告されておられません。

しかし以下のような事が起こることが考えられます。

- ・ 採血に伴う合併症（採血部位の疼痛、皮下出血）
  - ・ 一般的な注入療法にみられる、注入による痛み、赤み等
- 症状の多くは一時的ですが、症状が続く場合や症状が強くなる場合は当院へご相談ください

